



kaminorippo.org

神の律法：第2部：偽の救いの計画

サタンが異邦人を惑わす戦略

急進的な戦略の必要性

悪魔がキリストの異邦人従者を神の律法への不服従に導くためには、急進的な何かが必要でした。

イエスの昇天から数十年後まで、教会はユダヤ人（ヘブライ人）、ディアスポラのユダヤ人（ヘレニズム）、そして異邦人（非ユダヤ人）で構成されていました。イエスの最初の弟子たちの多くがまだ生きており、これらのグループと家庭で集まっており、イエスが生前に教え、実践したすべてのものへの忠実さを保つのに役立っていました。

神の律法への忠実さ

神の律法は読まれ、イエスがその従者に指示したように厳格に守られていました：

「彼は答えた、『むしろ神の言葉 *[λογον του Θεου (logon tou Theou)]* タナハ、旧約聖書] を聞いてそれに従う者こそ祝福されている』（ルカ11:28）。

イエスは父の指示から決して逸脱しませんでした：

「あなたはあなたの戒めを勤勉に守るよう命じました」（詩篇119:4）。

今日の教会で一般的な考え—メシアの到来が異邦人を旧約聖書の神の律法に従うことから免除した—は、四つの福音書に見られるイエスの言葉に何の根拠也没有。

救いの元々の計画

異邦人に常に開かれた救い

文明の歴史において、神が悔い改めて彼に立ち返り、罪の赦しを受け、祝福され、死後に救いを得ることを誰にも許さなかった時期はありません。

言い換えれば、メシアの到来以前から、救いは常に異邦人にも開かれていました。今日の多くの教会の人々は、イエスの到来と彼の贖いの犠牲によって初めて異邦人が救いにアクセスできるようになったと誤解しています。

変わらない計画

真実は、旧約聖書以来存在していた救いの計画がイエスの時代にも有効であり、今日もそうであるということです。

今との唯一の違いは、以前は罪の赦しの一環として象徴的な犠牲が含まれていたのに対し、今日では世界の罪を取り除く神の子羊の真の犠牲があることです(ヨハネ1:29)。

神の契約の民に加わる

イスラエルに加わる要件

この決定的な違いを除けば、残りはキリスト以前と同じです。異邦人が救われるためには、割礼のしるしによって封印された永遠の契約によって神が自身のものと定めた国に加わらなければなりません：

「そして主に仕え、主の名を愛し、その僕となるために主に加わる異邦人 [חָךְ *nfikhār* (見知らぬ者、外国人、非ユダヤ人)] たち... そして私の契約を固く守る者—これらを私は私の聖なる山に連れて行きます」(イザヤ56:6-7)。

イエスは新しい宗教を創設しなかった

イエスが多くの人が想定するように異邦人のために新しい宗教を確立しなかったことを理解することが重要です。

実際、イエスは異邦人とはほとんど交流せず、彼の焦点は常に自分の国にありました：

「イエスは十二人を送り出し、次の指示を与えました：異邦人の間に行ってはならない、またサマリア人の町にも入ってはならない。むしろイスラエルの亡魂の羊たちのもとへ行きなさい」(マタイ10:5-6)。

神の真の救いの計画

救いへの道

神が旧約聖書の預言者やイエスが福音書で明らかにしたものと完全に一致する真の救いの計画は単純です: 父の律法に忠実であろうと努めれば、彼はあなたをイスラエルと結びつけ、罪の赦しのために子のもとへ送ります。

父は彼の律法を知らながら公然と不服従に生きる者を送りません。神の律法を拒絶することは反逆であり、反逆者には救いはありません。

偽の救いの計画

聖書的根拠のない教義

ほとんどの教会で説かれる救いの計画は偽りです。これは、旧約聖書の預言者を通じて神が明らかにしたもののや、イエスが四つの福音書で教えたものに裏付けられていないためです。

魂の救いに関するあらゆる教義(主要教義)は、これら二つの原初の情報源によって確認されなければなりません:

1. 旧約聖書(タナハ—律法と預言者)、イエスが頻繁に引用したもの。
2. 神の子自身の言葉。

中心的な偽り

この偽の救いの計画の擁護者が推進する中心的な考えは、異邦人が神の戒めに服従せずに救われることができるというものです。この不服従のメッセージは、エデンで蛇が説いたものと同じです: 「あなたは決して死なない」(創世記3:4-5)。

もしこのメッセージが真実であれば:

- 旧約聖書にはこの点を説明する多くの箇所が含まれているでしょう。
- イエスは、神の律法から人々を免除することがメシアとしての彼の使命の一部であると明確に宣言したでしょう。

しかし、現実には、旧約聖書も福音書もこのばかげた考えを支持するものではありません。

イエス後に遣わされた使者たち

福音書以外の情報源への依存

神の律法への服従なしに救いの計画を推進する人々は、メッセージの中でイエスに言及することはほとんどありません。理由は明らかです：彼らはキリストの教えの中に、彼がこの世に来て父の律法に故意に不服従する者を救うために来たことを示唆するものは何も見つけられないからです。

預言的裏付けの欠如

代わりに、彼らはキリストの昇天後に現れた個人の著作に依存します。この問題点は次の通りです：

1. イエス後に神からの使者が現れるという旧約聖書の預言はありません。
2. イエス自身、彼の後に異邦人のための新しい救いの計画を教える使命を持つ者が来るとは一切言及していません。



イエスが教えた以上のものを教える任務を負った者の到来についての預言はありません。救いについて知る必要のあるすべてはキリストで終結しました。

預言の重要性

神の権威の要件

神の啓示は有効であるために事前の権威と委任が必要です。イエスが父から遣わされた者であると私たちが知るのは、彼が旧約聖書の預言を成就したからです。

しかし、キリスト後に新しい教えを持つ他の個人が遣わされることについての預言はありません。

イエスの教えの十分性

私たちの救いについて知る必要のあるすべてのものはイエスで終結します。イエスの昇天後に現れた著作物は、聖書内外を問わず、イエスが教えた以上のものを教える任務を負った者の到来についての預言がないため、二次的かつ補助的なものと見なされるべきです。

教義の有効性の基準

四つの福音書におけるイエスの言葉と一致しないあらゆる教義は、その起源、期間、人気に関係なく、偽りとして拒絶されなければなりません。

救いの旧約聖書の預言

マラキ後に起こる救いに関連するすべての出来事は、旧約聖書で預言されていました。これには以下が含まれます：

- メシアの誕生：イザヤ7:14；マタイ1:22-23
- エリヤの霊で来るヨハネ・バプテスト：マラキ4:5；マタイ11:13-14
- キリストの使命：イザヤ61:1-2；ルカ4:17-21
- ユダによる裏切り：詩篇41:9；ゼカリヤ11:12-13；マタイ26:14-16；マタイ27:9-10
- 彼の裁判：イザヤ53:7-8；マタイ26:59-63
- 彼の無垢な死：イザヤ53:5-6；ヨハネ19:6；ルカ23:47
- 裕福な人の墓への埋葬：イザヤ53:9；マタイ27:57-60

イエス後の個人についての預言なし

しかし、イエスの昇天後に、聖書内外を問わず、異邦人が異なる方法で救われるために遣わされた個人についての預言はありません—ましてや神の律法に故意に不服従しながら生きる者が天国に温かく迎え入れられる方法などなおさらです。

言葉と行いを通じたイエスの教え

真のキリストの従者は、彼の模範に倣って人生全体を形作ります。イエスは彼を愛することが父と子への服従を意味することを明確に教えました。この命令は気弱な者ではなく、神の王国に焦点を当て、永遠の命を得るために必要なことは何でもする準備ができている者のためのものです。この献身は友人、教会、家族からの反対を引き寄せるかもしれません。

割礼、髪と髭、安息日、禁じられた肉、そしてツイツイトに関する戒めは、今日のキリスト教のほとんどの人々によって大きく無視されています。これらの戒めに従わず、従うことを選ぶ人々は、マタイ5:10でイエスが警告したように迫害に直面する可能性があります。神の戒めに従うには勇気が必要ですが、その報いは永遠の命です。